

コミケビギナーのための 超・速・解 アドバイス

ComiNavi



震災後の環境もだんだんと常態になってきたとは言え、この夏も節電などの影響がどう出るか分かりません。

でも、今回の情報をきちんと集め、準備と対策をしっかりと行なって参加すれば、それは平常運転のコミケット。いつだってその回のコミケットは二度とはない『特別』です。だから今回もいつも通り、目一杯楽しみましょう！

■■多角的暑熱対策基礎■■

コミケットの環境は過酷だ。そしてそれは、一旦家を出て会場に向かってしまったら、丸一日その装備だけで過ごさねばならないという条件でさらに厳しいものになる。

会場に着いてから自分の装備が間違っていた、足りなかったという事が分かって簡単にリカバリできないのだ。これはなかなか日常生活の中では無いパターンと言えるだろう。

単に暑いという温度的な問題だけに対応すればよいという訳ではないのがコミケットの一筋縄ではいかないところだと理解して、多角的な準備と対策をしておこう。

■焼けるぞ溶けるぞ暑さ対策■

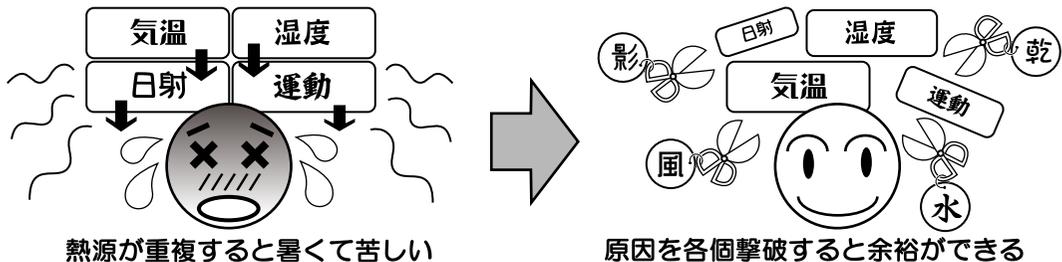
対策を考えるためには、まずコミケットでの『暑さ』の質には二種類あることを知っておく必要がある。ひとつは主に入場待機列や大手や企業の販売待機列などの屋外の陽射しや夏の気温からくるじりじりと直接的な暑さである熱射的な焼けるような暑さ。そして混みあった館内や雨が降った後などの湿気がこもった暑さである放射的な溶けるような暑さだ。

この二種類の暑さは全く性質が違い、当然対策も異なる。この『暑さ』は、さらに四種類の要因に分けることができる。『気温』『日射』『湿度』『運動』という4つの要因が重なりあって、会場内外での体感気温を作りしているのだ。

事前によく自分が目的とするジャンルや日程を確認して行動のスケジュールを立ててみれば、アナタがどんな環境により多く晒されることになるかが分かる。つまり、どの暑さに対して重点的に対策を講じるべきかが予測できるのだ。実際その場所の気温が何℃であるかはあまり問題ではない。要はどんな環境下でも、暑さに負けずに活動可能であれば良いのだから、その意味では、対策済の参加者とももしていない参加者は異なった体感環境下にいるといっても良い。もちろん、環境を味方につけた方が有利なのだ。

●暑さの四要素

- ① 気温：空気そのものの温度。体温と気温の差が小さくなるほど体温調整が困難になる。 対策は『風』
- ② 日射：強力な直接的熱源としての太陽エネルギー。浴びれば当然体温が上がる。 対策は『影』
- ③ 湿度：空気中の水分量。多くなれば汗が蒸散しずらくなり、実際の気温より暑く感じる。対策は『乾』
- ④ 運動：自分自身が身体を動かすことによって発生する熱量。激しく動くほど暑くなる。 対策は『水』



コミケビギナーのための 超・速・解 アドバイス

ComiNavi



震災後の環境もだんだんと常態になってきたとは言え、この夏も節電などの影響がどう出るかわかりません。でも、今回の情報をきちんと集め、準備と対策をしっかりと行なって参加すれば、それは平常運転のコミケット。いつだってその回のコミケットは二度とはない『特別』です。だから今回もいつも通り、目一杯楽しみましょう！

■■多角的暑熱対策基礎■■

コミケットの環境は過酷だ。そしてそれは、一旦家を出て会場に向かってしまったら、丸一日その装備だけで過ごさねばならないという条件でさらに厳しいものになる。

会場に着いてから自分の装備が間違っていた、足りなかったという事が分かって簡単にリカバリできないのだ。これはなかなか日常の生活の中では無いパターンと言えるだろう。

単に暑いという温度的な問題だけに対応すればよいという訳ではないのがコミケットの一筋縄ではいかないところだと理解して、多角的な準備と対応をしておこう。

——■焼けるぞ溶けるぞ暑さ対策■——

対策を考えるためには、まずコミケットでの『暑さ』の質には二種類あることを知っておく必要がある。ひとつは主に入場待機列や大手や企業の販売待機列などの屋外の陽射しや夏の気温からくるじりじりと直接的な暑さである熱射的な焼けるような暑さ。そして混みあった館内や雨が降った後などの湿気がこもった暑さである放射的な溶けるような暑さだ。

この二種類の暑さは全く性質が違い、当然対策も異なる。この『暑さ』は、さらに四種類の要因に分けることができる。『気温』『日射』『湿度』『運動』という4つの要因が重なりあって、会場内外での体感気温を作りしているのだ。

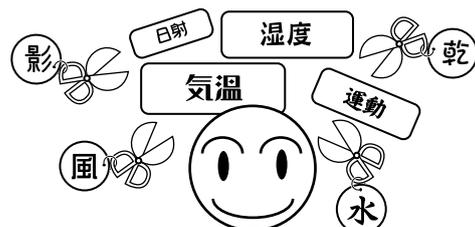
事前によく自分が目的とするジャンルや日程を確認して行動のスケジュールを立ててみれば、アナタがどんな環境により多く晒されることになるかが分かる。つまり、どの暑さに対して重点的に対策を講じるべきかが予測できるのだ。実際その場所の気温が何℃であるかはあまり問題ではない。要はどんな環境下でも、暑さに負けずに活動可能であれば良いのだから、その意味では、対策済の参加者と何もしていない参加者は異なった体感環境下にいるといっても良い。もちろん、環境を味方につけた方が有利なのだ。

●暑さの四要素

- ① 気温：空気そのものの温度。体温と気温の差が小さくなるほど体温調整が困難になる。対策は『風』
- ② 日射：強力な直接的熱源としての太陽エネルギー。浴びれば当然体温が上がる。対策は『影』
- ③ 湿度：空気中の水分量。多くなれば汗が蒸散しずらくなり、実際の気温より暑く感じる。対策は『乾』
- ④ 運動：自分自身が身体を動かすことによって発生する熱量。激しく動くほど暑くなる。対策は『水』



熱源が重複すると暑くて苦しい



原因を各個撃破すると余裕ができる